保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 福進福祉会
施設名	認定こども園 武庫庄保育園
報告者（役職）	織田 広美（ 事務長 ）
住所・連絡先	兵庫県尼崎市武庫之荘本町３丁目２２－２２ ☎　　０６－６４３３－２４２５ E-mail　oda@mukosho.jp

○タイトル（保育計画）

みんなでチャレンジ!サーキット遊び

○主な助成備品

安田式テクノロマンの低鉄棒、幼児用平均台、カラーマット

1.　保育計画策定の目的

認定こども園武庫庄保育園では、乳児から各学年の人数が多く、日常的に室内と園庭に分かれて遊ぶ等、子ども達の運動遊びを提供してきました。

しかし、活動場所や天候に左右されることなく、遊びを提供できる遊具や環境作りを行いたいと考え、子ども達が日々楽しく活動できる機会を取り入れたいと思いました。

そこで安田式体育遊びでは、年齢や発達に制限がなく、遊具の組み合わせや置き方を工夫することで、室内でも活動の幅や遊びが広がることを目指し、導入しました。

2.　具体的な実施内容

各年齢の発達を促すことができる運動遊具を用いて、子どもの成長の発達の向上に加えて、遊びの幅を広げ、保育の充実を図ることをねらいとしました。

○乳児クラス

ぶらさがり

平均台くぐり

マットや平均台、鉄棒を組み合わせて、サーキット遊びをしました。

サーキット遊びでは、保育士自身が伝えなくても、自分の目の前にいる子を目で追い、自然と回遊することが身に付きました。また、マットの色により動きを変えることで、自然と動きを意識するとともに、色への興味を持ちました。

また、鉄棒にも興味を持ち、自ら握ってみようと思い、日常生活では経験しにくいぶらさがる経験が身に付きました。

平均台をくぐり終えると保育士とハイタッチをすることで、愛着を感じることができる効果もあります。

〇幼児クラス

平均台をバランスを取り渡る

平均台の横跳び

前転

・サーキット遊び

鉄棒・平均台・マットを組み合わせることでサーキット遊びを行いました。

サーキットということで、コースを選択し子ども達が意欲的に自ら取り組むことで、何度もやってみようとする姿が見られ、運動遊びではなく、遊びとして取り組むことができました。

・平均台

渡る際に、手を頭→肩→お腹を順に触ることを伝えることで、よりバランスが取れるように遊びの中で工夫しました。

また、平均台を渡るだけではなく、握り、掴み、飛び越える、またぐ動き等を取り入れることで、日常的に取り組みにくい動きを取り入れました。

・マット運動

前転では、マットをただ並べるだけではなく、マットを重ねることで段差をつけ、手をつく位置が分かりやすく、回りやすくなるよう工夫する等、前転を行う上での恐怖心が無くなるように配慮しました。そうすることで、できたという自信にも繋がる姿が見られました。

3.　その成果と評価

マットで転がる時に、顔をあげて回転することを意識づけたことで、転倒した時に顔が上がるなど視野が広がり、日々の怪我の減少にも繋がりました。

運動遊びというと、苦手意識をもち参加しにくい子もいましたが、サーキット遊びでは難易度を変え、子ども自身がコースを選択することを取り入れることで、やってみようという意欲に繋がり、そこからできたという自信になり、すこし難しいことでも挑戦しようとする自らの意欲にも繋がりました。

また以前は、鉄棒で遊ぼうとしなかった子どもが園庭に行くと自ら鉄棒で遊び始める等、苦手意識も少なくなり、遊び始めました。周りで見ている子ども達も練習している様子を見て、「こうしたらよいかな」と考えながらアドバイスをする等、自分だけではなく相手の成功を喜べるようにもなりました。この姿から、体育遊びだけにとどまらず、子ども同士の関係性も良くなり、心の成長にも繋がっていきました。

4.　今後の課題と展望

安田式体育遊びの経験を通して、日常の遊びの経験の積み重ねが大切であることに気づきました。日常的に子ども達が運動遊びを行えるように、年齢ごとのねらいや目標を立て、楽しく自らやってみたいと感じるような環境づくりに職員自身も日々試行錯誤し、計画を立てて継続的に取り組んでいきたいと思います。

また、子ども達の心と体が大きく成長するこの時期に、一人ひとりの姿を認めて、できたという実感を積み重ねることで、自己肯定感の向上にも努めていきたいと思います。

以上